

従業員の皆様

3月8日は国際女性デーです。“Inspire Inclusion”この言葉は今年のキャンペーンテーマのひとつです。これは私たちひとり一人が女性の参加および活躍を尊重し理解するよう促すことで、より良い世界が築かれる、という Message です。またこの日はミモザの日とも呼ばれ、黄色い可憐なミモザの花がシンボルとして親しまれています。

フランス語に“douce, délicate mais aussi forte comme un mimosa”（ミモザのように可憐で繊細でかつ強い）という言葉があります。花自体は小さく可憐で繊細なのですが、実はミモザの木は枯れた土地にも強く、大きく強靱に育つのです。ミモザと言えば私は一人のフランスの友人を思い出します。彼女は私と同年代なのですが、リセを卒業してすぐにテキサスの大学に進み、MBA を取ってパリに戻り一流企業の管理職につき、さらに日本企業のパリ支店責任者も務め、またサンフランシスコでフランス企業の現地法人責任者を任されるなど、華麗な経歴を持ち、エレガントでとても意志の強い、まさにミモザのような友人です。今でこそフランスは欧米諸国の中でも女性管理職の割合が高い国の一つですが、私がパリで知り合った数十年前はそれほどでもありませんでした。特に大企業になればなるほどむしろ男性中心の社会で、彼女は相当の努力をし、苦勞もしたと思われるのですが、私には微塵もそのような姿は見せませんでした。彼女の活躍する姿は男性の私から見ても素敵で、尊敬できる憧れの存在でもありました。

その彼女が当時よく言っていた、“Il faut de tout pour faire un monde”（世の中には全てが必要な）という言葉が忘れられません。この言葉は、彼女が他の人と意見が異なり、口論した後でよく使われていたのですが、今となってはまさに Inclusion が大切だということを彼女がよく理解していたような気がします。自分とは異なる意見の人もそうですが、女性や男性という性別、年齢、国籍や人種が異なる人々を受け入れ、共にいることで社会はより豊かになるのだ、と信じて行動していたのだ、と思います。

国際女性デーを迎えるにあたり、ぜひ皆さんも私の友人のように Inclusion を大切にして、全ての女性も男性も Gender に関わらず共生共創して成長ができるように、そして自らの個性と能力を最大限かつ持続的に発揮し、活躍できる職場環境を実現できるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

友人は現在、南仏でパートナーと一緒にペンションを経営しています。この時期南仏では一面にミモザの花が咲き乱れ、ミモザ祭りも催されます。ミモザを摘んで客室に飾り、世界中から様々なお客様を迎え、楽しく充実した生活を送っている友人が目に見えます。

人事担当役員
Pierre 山科